

小松島市新小学校施設整備基本計画（素案）に対するパブリックコメント実施結果

1	意見募集案件	小松島市新小学校施設整備基本計画（素案）に対する パブリックコメント
2	意見募集期間	令和5年3月3日（金） ～ 同年3月17日（金）
3	閲覧場所	市ホームページ、教育委員会教育政策課学校再編推進室
4	意見提出者数	2人
5	意見提出件数	10件
6	意見の内容と教育委員会の見解	次ページ以降のとおり

・提出方法の内訳

提出方法	人数	備考
郵送	0	
持参	1	
電子メール	1	
ファクシミリ	0	
合計	2	

※教育委員会の見解では、今回の意見募集案件「小松島市新小学校施設整備基本計画（素案）」については「本計画素案」と記載させていただきます。

※いただいたご意見については原文のまま記載させていただいています。

NO.	件	意見の内容	教育委員会の見解
		<p>「学校が素敵だとそこに住みたくなくなるというのが世界の大きな流れです。ソフトとハード、両面が一体になることですごい力を発揮します。」</p> <p>寝屋川市に学校を作ることになった隈研吾氏の言葉です。</p> <p>この度の学校再編というネガティブなイメージを、払拭するために隈研吾氏の言葉は、大変参考になると思います。</p> <p>小松島市は、人口減少に歯止めがききません。単なる学校再編ではなく、小松島に住みたいと思うような学校再編のありかたを考えて欲しいと思います。</p> <p>私の地区の小学校（千代）は、編成により消滅いたします。人口が減っているなかで学校再編は仕方のない事だとは、理解をしているつもりです。</p> <p>せっかく再編をし新しい学校をつくるのでしたら、他の市町村でやっていないようなソフト、ハード両面での学校づくりを検討していただけないでしょうか。</p> <p>今更難しいかもわかりませんが、小松島中学校、小松島南中学校の隣接（もしくは近隣）にハード（校舎の建設）、ソフト（小、中一貫教育）にチャレンジすることで魅力のある学校づくりが出来るのでは、ないでしょうか。（モデルケースとしてこの度、再編される南小学校、と新開小学校を中学校に隣接させる）新しい形の学校を作ることで、消滅する地域の方々もネガティブなイメージからポジティブなイメージに変わるように思われます。）</p> <p>先日の新聞にも載っておりましたが、教育に力を入れている地域が人口増加傾向にあります。（放課後学習の実施等）</p> <p>学校再編という大きな流れの中で、他の市町村と違う試みをする事で住みたくする町になるのではと考えております。</p> <p>ただ単に再編し、新校舎を作るではなく、ハードとソフト両面の学校再編（改革）をお願いしたいと思います。</p>	<p>本計画素案の3ページから4ページにあるとおり、施設整備のコンセプトとして「『つながり』により子どもたちが育つ学校」を掲げ、子どもたちに「生きる力」を育む教育環境を整備していくことをめざしています。</p> <p>小中連携については、再編により市北部は1中学校3小学校、市南部は1中学校2小学校で小中一貫教育を進め、さらなる学校間の連携の充実、教育効果の向上を図っていきます。</p>

NO.	件	意見の内容	教育委員会の見解
2	2	<p>私は子供の教育に携わったこともありませんし建築を学んだこともありません。ただ小松島教育委員会が作られた「小松島新小学校施設整備基本計画（素案）」（以下素案）に素人ながら些かおたずねしたいことまた提案したいことがあるためこのパブリックコメント（以下コメント）を提出するものです。</p> <p>また私のコメントは再編計画第一期の前期に開校を予定している仮称「新小松島小学校」のみについてコメントさせていただきます。</p> <p>提案その1； 校舎をピロティー形式なさるよう計画されていますが再検討下さい。</p> <p>素案に示された校舎は1Fを5mのピロティーにし2F以上に学校の主要な設備を設置する構想になっています。</p> <p>理由は「洪水や津波による浸水から児童のいのちを守り、学校運営に必要な機能を維持するため」と説明されています。</p> <p>その根拠として素案ページ8～10に書かれている南海トラフ巨大地震による震度7の地震で発生する①液状化②4mの津波また③洪水による3mの浸水④高潮による3mの浸水をあげられ、その防災対策として「ピロティー」を選択したと説明なさっています。</p> <p>この考慮すべき災害のなかで「南海トラフ巨大地震」による「津波被害」が一番おおいであろうことが予測されますが、昨年小松島市が作成した「津波ハザードマップ」には「小松島市における地震発生からの津波到達予想時間は、小松島市本港奥での初期水位+20cm（津波影響開始時間）の到着時間である”41分”を基本とします」とあります。</p> <p>またこの「津波ハザードマップ」には「小松島市の津波到達予想時間」の一覧表も記載されていて、「南小松島地域」の「津波到着予想時間」は「41分」と書かれています。</p> <p>質問ですが、例えばその日運動会をやっていて児童はもちろん保護者や先生の皆様が運動場にいらっしゃる時に「震度7の巨大地震」が発生したとします、津波の襲来が考えられますが、「41分」で運動場にいる全ての人が校舎の屋上に避難することはできないでしょうか。</p> <p>「避難できる」となれば「ピロティー」の必要はなくなります。</p> <p>児童の発育を考え教育を考えたら「教室のドアを開けたら”地べたがある、ビオトープがある”」ほうがいいのではないですか。</p>	<p>ピロティー形式を設けた理由としては津波の力を受け流すことにより、被害を最小限に抑えるとともに復旧活動を行いやすくすることや可能な限り早期に授業を再開することです。</p> <p>また普通教室は津波の基準水位より上となる2階以上に配置する予定としています。</p>

NO.	件	意見の内容	教育委員会の見解
2	3	<p>提案その2； 駐車場についてですが、校内に60台の車両を留められる駐車場を造るのはお止めになりませんか。 (仮称)新小松島小学校の開校まで4年ありますがその期間に校外に駐車場を確保することを旨とするのがまず第一です。 しかし4年では無理かもしれません、その場合、南小松島小学校のトイレがいつまでたっても改装改修されない例と同じでは困りますが、当面(開校後1~2年)は校内に臨時的駐車スペースを確保したうえで、障害を持つ児童の送迎用と緊急用車両とを除き他の車両は一切校内に「開校後1~2年後には」駐車しないことを考え方に、基本計画を立てられてはいかがでしょうか。肝は「臨時的駐車場を造るが、開校後1~2年後には校外の駐車場に60台を収容し校内の駐車場は撤去する」ことです。 理由は小学校の校内は”児童の勉学の場であり遊び場”です。”駐車場は似合わない”です。車が”子供の遊び場を奪う”ことは許されることではありません。ご検討ください。 南小松島駅前を①ロータリーにし②通学の送迎車両の降り場乗り場にする③スクールバスの発着場にする④駅から回廊を立ち上げ、県道小松島佐那河内線の上を越え新小学校の2Fと連絡し、児童が駅から直接校舎に出入りできるようにする。また⑤駅前、小学校西側と東側に駐車スペースを確保する(先生と学校に用事のある方々の駐車場です)。この計画を検討下さいませんか。計画を進めるには他部署と協議連携が必要です。是非協議をお願いいたします。</p>	<p>駐車場については、現在の南小松島小学校においても不足しているというご意見をいただくことがあり、新小学校を建設した際にはこれまでよりも子どもの数が増加することから送迎などで駐車場のニーズが増加することが想定されます。このことから、本計画素案においては60台程度の駐車場スペースを設けることとしています。 南小松島駅周辺の施設整備については、本計画素案の計画区域外となります。</p>

NO.	件	意見の内容	教育委員会の見解
2	4	<p>提案その3； 木造の校舎を建築することを検討下さい。 ごぞんじのとおり木造の学校が増えています。学校ではありませんが耐震が確保された10階建てオフィスビルも計画されています。①近場では徳島市の新浜5階建て木造県営住宅②木頭の小学校と中学校（内部が木造）③三好市から高知県に入って直ぐにある大豊町に昨年4月に開校した小学校と中学校の一貫校（今年の四国建築学会賞を受賞）、これらの木造建築物の見学を検討下さい。それはそれは木造校舎がいかによいらしいかご理解いただけたと思います。</p>	<p>平成26年6月から木造3階建ての校舎が建設できるようになりましたが、防耐火性能や延焼抑制など様々な措置の強化が必要とされています。 津波想定区域であることや4階建てであることから、木造での建築は困難であると考えています。 新小学校の施設整備においては、本計画素案19ページにあるように、地産材を内装や建具に取り入れるなど、検討を行っていきます。</p>
2	5	<p>提案その4； 「集合知」の活用を検討下さい。 「集合知」とは皆の知恵の集合です。それが結集した小学校を目指しましょう。それには①市民住民に今回作られた「小松島市新小学校施設整備基本計画」（素案）の説明会を令和3年に行ったと同じように11校区で行い市民住民の質問に答えると共にみなさんの知恵や意見を集約することをなさいませんか。 ②児童へのアンケートを行う。どうして行わないのか不思議です、小学校の主役が誰なのか？を考えれば答えは明らかだと思います。「どんな学校がいいか？」「どんな教室がいいか？」「どんなトイレにしてほしいか？」他にも色々あろうかと思っています。学校のトイレを専門に設計する事務所の方が書かれた本には「設計にかかる前に子供達にアンケートで尋ねる」と書かれているのを読んだことがあります。是非検討下さい。</p>	<p>関係者の皆様からの意見聴取については、学校再編準備会議や各専門部会において地元住民及び保護者の方々、教職員並びに有識者の方々からご意見を伺うとともに、小学生へのアンケート調査を実施し、本計画素案に反映しています。 皆様からのご意見を今後も参考にしつつ、学校再編について必要な議論を重ねていきます。</p>

NO.	件	意見の内容	教育委員会の見解
2	6	<p>提案その5； 通学路に関しての提案です。 ここでは一箇所をピックアップして提案を させて下さい。その箇所は南小松島小学校 の西側の道路です。 私が大変危険な通学路と思っているのは 「小松島高等学校の西南の角から芝生川ま で」です。 朝児童の通学時間にこの道路を毎6秒ごとに 1台の車が通行しています。 教育委員会も把握なさっている大変危険な 通学路です。 毎朝この双方向通行可能な道を児童が登校 してきます。雨の日もです。 ここをなんとかしませんか。「小松島市通 学路安全推進協議会」のテーブルに毎回 乗っていて議論されている案件と思いま す。小松島市都市整備課が作成した令和2年 の「通学路点検・対策箇所一覧」には「松 高運動場西南交差点」は「危険である」と の記載がさなれ対策として「交差点を赤色 で囲んで明示する。（今年度中）一時停止 線の塗り直し。」とあります。 実行されています。しかし児童の安全は確 保されたと思われますか？たいへん不十分 な対策とは思われませんか？ ①この通学路の「あるべき姿」は道路両サイ ドの家屋がセットバックされ「歩道のある 道路」にすることです。 しかしそれは大変難しいことです。では② 道路を「一方通行にする、スクールゾーン にする」ことは出来ませんか？ 関連部署も含め検討下さい。児童の命に係 わる案件です。 ③②で提案したことも出来ないとなったと き、「芝生川から松高の西南角までの道 路」をa.「でこぼこ道」にするb.道路上に 「ここは通学路です」「スピードを落とし てください」「子供が歩いています」等々 をペンキで描く、ことはいかがですか。c. 「スピード30キロ道路」の指定道路にする 等々あらゆる手段を使って危険対策をなさ いませんか。 検討下さい。 子供への「交通安全教育」も大切です。朝 日新聞2023年2月26日に掲載されていました 「どう取り組む？学校で行う交通安全教 育」と題する「寺子屋朝日」のセミナー案 内のコピーを添付してあります。 参考になれば幸いです。</p>	<p>通学路の安全確保については専門部会である 通学部会や通学路安全推進協議会で抽出された 箇所の現地確認や対応策の検討を行っており、 今後も新小学校の通学路に関して協議を行って いきます。 ご意見のありました箇所についても、安全性 が高まる方策について警察や道路管理者等の関 係者と検討を続けていきます。 また、子どもに対する交通安全教育について は、教室での交通安全学習や登下校時の安全指 導、グラウンドに模擬交差点を設けての体験学 習などにより、安全意識の向上を図っていま す。</p>

NO.	件	意見の内容	教育委員会の見解
2	7	<p>提案その6； 避難所に関して、災害のなかで「南海トラフ巨大地震」による被害が一番大きなものになると予想されますが地震発生直後から（仮称）新小松島小学校は避難所になります。 令和1年11月8日に徳島大学の中野晋先生が小松島市役所で講演をされその中で小松島市の被害は「①半年以上の停電の可能性がある②上水道の断水は停電の復旧を待たなければならず長期化する」と話されました。 避難所の一番の問題は「トイレ」です。電気もなく水もないなかで避難所の運営を考えなければなりません。 素案ページ18には「表4-2設備等の防災対策」として設備のリストをあげられていますが「数量規模能力等」の記載がありません。たいへん難しいとは思いますが、①避難者の員数期間を想定をし②それに対応した電気や水ををはじめ避難所に必要な確保すべき物資を具体的な数量と共に明示すべきです。難問に正面から向き合った解答を期待しています。 いずれ来る災害です、誤解答であることを恐れず市民住民の命を守る観点から「数量規模能力等」を具体的に明示すると共に「装備等の備蓄完了が何時なのか」も明示することを検討下さい。 また「学校そのものの再開」に関し記述がありません。検討し素案に書かれるようお願いいたします。</p>	<p>本計画素案については、施設のコンセプトや求められる機能を提示するとともに、学校の規模や配置等のイメージ等学校建設に関する方針を示すものであります。 防災については、ハード・ソフト両面から必要であると考えており、本計画素案とは別に必要な施策を防災担当部局とともに協議していきたいと考えています。</p>
2	8	<p>提案その7； 施設整備のコンセプト「つながり」についての提案です。下記のイベントやプログラムを検討下さい。 A上級生と下級生が「つながる」 ①集団登校②食堂を作り一緒にご飯を食べる③「弁当の日」を実施する B地域と「つながる」 ①地域一体の校庭での防災キャンプ②「地域交流スペース」を「ボランティアセンター」にする③田野の旗山さんから香川の屋島まで「義経の道」をボランティアと一緒に歩く、一泊二日の歩き旅④自炊塾（ボランティアと一緒にご飯を炊きみそ汁とたまご焼きを作る） C図書館と「つながる」 これは「ニューヨークのパブリックライブラリーに学ぶ」に尽きます。</p>	<p>新小学校においては、施設整備のコンセプトとして「『つながり』により子どもたちが育つ学校」を掲げ、子どもたちに「生きる力」を育む教育環境を整備していくことをめざしています。 「つながり」を支える多様な学びを提供していくことが必要であると考えていますので、専門部会である教育課程等部会での今後の検討の参考とさせていただきます。</p>

NO.	件	意見の内容	教育委員会の見解
2	9	<p>提案その8；；</p> <p>建築物として小学校の先進事例を訪問下さい。具体的には千葉県幕張にある「打瀬小学校」です。小学校建設に長く携われた「長澤悟さん」「上野淳さん」何れの方もその著書で取り上げている学校です。</p> <p>上野さんは「豊かな空間性・デザイン性によって、当時の学校建築界に強い衝撃を与えた小学校建築の秀作」と評しています。</p> <p>1995年3月に竣工しその年の「建築学会賞」を受賞した作品です。</p> <p>東京駅から30分で海浜幕張に着きます、駅から歩いて10分で学校です。</p> <p>「打瀬小学校」には学校の周囲を囲う「フェンス」がありません。</p> <p>教室は低学年中学年高学年でサイズや天井高が異なります。</p> <p>先生方が見学されると「インスピレーション」の湧くこと間違いのない学校です。</p> <p>28年前にできた学校ですが是非見ていただきたい小学校です。</p>	<p>新小学校の建設に向けて、建物の詳細な事項については基本設計の段階で検討していくこととなりますが、引き続き先進事例の研究も進めていきます。</p>
2	10	<p>提案その9；</p> <p>最後にいくつかの小学校の平面図や写真を添付しました。</p> <p>中心は「長澤悟さん」が2019年に東京と青森でなされた「子どものための建築と空間展」から拝借したものです。</p> <p>最近の学校建築のコンセプトは「学校＝第二の自宅」です。食堂を持った学校が増えているのがうなずけます。</p> <p>自宅では勉強机の上でご飯を食べません。そんな普段のすがたが学校のなかで見られるようになって欲しいものです。</p>	<p>学校施設は教育を行う場のみならず、子どもの社会性・人間性を育む場であり、それにふさわしいゆとりと潤いのある快適な空間であることが重要です。</p> <p>また、空間の心地よさを感じて学び生活することで、子どもの心理面、情緒面の安定や更なる学習意欲向上につながるものであると考えています。</p> <p>いただいた情報も参考に、子どもが楽しく、安心・安全に日々を過ごせるような学校施設となるよう今後も検討を重ねていきます。</p>